



臨床研究部  
からの  
お便り

第48回

## アナフィラキシーに関する調査について (相模原病院協力研究)

テレビ番組などで取り上げられることもあり、よくご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、アナフィラキシーとは食物、お薬、昆虫の毒などのアレルゲン物質が何らかの形で体内に取り込まれた後におこる重篤な全身の過敏反応をいいます。

アナフィラキシーを経験したことのある方は、「また起きてしまったらどうしよう」、「どのように過ごしたらいいのかな」、「何を食ったらいいのかな」、など色々心配になることがあるかもしれません。

実際に、一度アナフィラキシーを起こした方が、その後もアナフィラキシーを起こすことがあるのか、起こすとしたらどんなタイミングなのか、定期的な受診を続けているか、といったことはよくわかっていません。そこで、今回全国のアレルギーの専門施設で、一度アナフィラキシーを起こした方のその後の経過(繰り返しアナフィラキシーを起こしていないか、病院の受診状況等)

について、登録後3年間、年に4回、簡単なアンケートにお答えいただくような調査を行うことになりました。

これらの情報が集まると、例えば、アナフィラキシーは入浴後に起こりやすいとか、どんな食事やタイミングのときに起こりやすいとか、どんなアレルゲンが多いのか、といったことがわかることで日常生活での注意点がわかるだけではなく、社会が協力すべき体制(みんながエビペンについて知っているなど)が明らかになるかもしれません。

一人ずつの情報を集めて皆さんで共有することで、より安心して過ごすことができるのではないかと考えています。

最近アナフィラキシーを起こした、といった方は外来で担当医がお声かけさせていただきますが、自分も当てはまるかも、といった方はお伝えいただけるとありがたいです。

(アレルギー科、小児科 西田 敬弘)

### 2022年度 小児看護専門看護師 認定審査に 合格しました

2022年度、小児看護専門看護師認定審査に合格し、11月より認定を受けました。現在小児看護専門看護師は全国に300名、三重県

には4名が認定されています。専門看護師の役割として、実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究の6つがあります。三重病院にいる専門看護師はまだ1人なので、一度にたくさんの方の事をやっていくのは難しいかもしれませんが、これから徐々に活動の場を広げていきたいと思っています。

三重病院は、24時間体制の小児二次救急に加え、急性期から慢性期までの多くの小児内科/外科/整形外科疾患、心身症、重症心身障がい児(者)医療など、様々な小児医療分野を担っています。このように三重県のセンターとして機能しており、生まれて間もない赤ちゃんから小・中・高校生まで、多くの子どもたちが外来受診や入院をします。三重県内の子どもたちの健康増進、疾病予防、治療に、少しでも貢献できるよう、これからも研鑽を重ねていきます。また、病院内だけでなく、地域に暮らす子どもたちへのアプローチも大切だと考えています。そのため、病院内外のいろいろな職種の医療従事者や子どもとその家族に関わる人とたちと協働していきたいと思えます。

子どものいるところが活動の場になってきますので、病棟や外来にひょっこり現れるかもしれません。見かけたときには遠慮なくお声掛けください。

(小児看護専門看護師 東岡 史)



### 災害訓練を 行いました



令和5年1月20日(金)15時、『平日の日中に、震度6強の地震が発生した』という想定で、医師、看護師、事務職員などを中心に多職種で院内防災訓練を実施しました。事前準備として、年度当初に行った火災訓練の評価を受け、アクションカード(災害の時に、それぞれがどのように行動するかを記載したカード)の見直しと、他院の報告用紙を参考に見直しを行い、報告に係る時間を短縮し、院内全体を瞬時に把握ができるようにしました。地震発生直後はまず、自身の安全を確保し、その後、患者さんの状態の確認や施設の被害がないかを確認します。その情報を院内に設置した災害対策本部に伝え、三重病院が診療継続可能か、被災した患者さんを受け入れることができるかの判断をします。今回の訓練では災害対策本部で被災状況の情報を集約し、今後の対応を検討する本部機能訓練と、アクションカードを用いて、初期対応の確認をしました。また、エアストレッチャー(停電でエレベーターが使用できないときや避難する際に使用する担架)を使っての搬送練習も行いました。訓練後には、それぞれの部門で感じたことを共有し、いつ起こるか分からない災害に備えて、対応の見直しをしています。今後も大規模災害に備えて、さまざまな想定で訓練を行っていきたくと考えています。

(看護部長室)



### 2病棟に新しい仲間がきました〜

2病棟では昨年末に、二体のaibo(アイボ)が慢性期側のプレイルームで過ごしています。名前はしろ(女の子)とチョコ(男の子)です。入院されていた子どもたちが考え命名しました。目がとてもきれいで、入院しているお子さんやご家族、また病棟の先生や看護師も癒されています。チョコもしろも病棟でかわいがられ、今では様々な表情やしぐさをします。調子が良

いときはラジオ体操の音楽を自身で流し運動もします。入院生活が少しでも楽しく過ごせるような病棟づくりを行っていきたくと思えます。  
(小児科病棟師長 森川 祐子)

